

### ③「災害と企業ボランティア」セミナー

能登半島地震や東日本大震災を契機に、企業としての災害ボランティア活動への関心がさらに高まっていることから、県内企業を対象に、企業としてどんな活動ができるか、どんなことに注意しなければいけないかを紹介することで、災害ボランティア活動の普及と啓発を図るため、セミナーを開催しました。

開催日：平成26年6月24日(火)13:30～15:00

開催場所：石川県庁11階 1102会議室

講演：「県と災害ボランティア～企業との関わり～」

講師 綿木浩三氏(石川県県民ボランティアセンター専務理事兼事務局長)

「災害ボランティアって～企業の皆さんにぜひ知っていただきたい～」

講師 北村裕一氏(日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー)

茂尾亜紀氏(石川県社会福祉協議会 専門員)



#### 【学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会】

複数の大学や団体に所属する講師によるこの事業は、実施にあたり内容の検討及び結果の検証などを行う組織として研究会を設けています。

#### 【事業の成果】

阪神淡路大震災から20年の歳月が過ぎ、これまで以上に人々の災害に対する在り方が問われています。東日本大震災でも若者や企業のボランティアが大きな力を発揮したという事実を踏まえて、一昨年度より「学生等災害ボランティアリーダー育成事業」として、全国的にも高等教育機関の集積度が高いという本県の特徴を活かして大学コンソーシアム石川「シティカレッジ単位互換事業」を活用し、災害発生時に即応できる学生等の災害ボランティアの中核的人材を育成するプログラムや企業を対象とした災害ボランティア活動を協働で推進するネットワークづくりについてもフォーラムやセミナーを実施してきました。

シティカレッジ科目「地域と災害」では、基礎編として多様な専門性を有する講師による講義やグループワークのほか、県内で活動する学生災害ボランティア団体の活動紹介や「きずなフォーラム」における県内災害ボランティアの協力体制についても議論を深めることができました。加えて実践編では、甚大な被害が残る宮城県石巻市などにおいて、地域復興支援に携わる方々からの講義や現地でのボランティア活動等への参加も含め、当事者から地震発生時や経時的状況について詳細に説明を受け、人々の復興への思いや取り組みについても直接的に学び、地域や災害に対する意識を強めることができました。

企業の災害ボランティアセミナーでは、災害ボランティアにおける企業への期待や知っておくべきことなど、企業としての災害ボランティア活動の普及と啓発が図られました。

昨年度、この事業により組織された「石川県学生災害ネットワーク(すとりばネット)」の学生たちが、より積極的に大学の枠を超えて情報発信や相互交流を深め、本県における災害ボランティアの連携・協働が今後更に強化されることが期待されます。

#### 【被災地における災害ボランティア実践活動に係る協力機関・協力者】

石巻専修大学

山崎省一 人間学部長

石巻専修大学

鈴木洋子 非常勤講師(門脇小学校前校長)

地域復興支援ワンストップサービス石巻センター

伊東孝弘 コーディネーター

(特)まち・コミュニケーション

宮定 章 代表理事

金華山黄金山神社

小松匡志 権禰宜、日野篤志 権禰宜

民宿めぐろ

目黒政明氏、目黒繁明氏、その他民宿めぐろの皆様

大原生活センターの皆様

多大なるご尽力に心より感謝申し上げます

#### 【関係機関・関係者・協力者】

##### ◇シティカレッジ講座

(一社)大学コンソーシアム石川、金沢大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、北陸学院大学、  
(社福)石川県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部、(公財)石川県県民ボランティアセンター

##### ◇学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

【委員長】池田幸應 金沢星稜大学人間科学部教授

【委員】八重澤美知子 金沢大学国際機構教授

武山雅志 石川県立看護大学看護学部教授

田中純一 北陸学院大学人間総合学部准教授

橋場 進 石川県社会福祉協議会ボランティアセンター所長

北村裕一 日本赤十字社石川県支部防災ボランティアリーダー

綿木浩三 石川県県民ボランティアセンター専務理事兼事務局長

(順不同・敬称略)

## 平成26年度 学生等災害ボランティアリーダー育成事業 活動報告書



#### 【背景・目的】

石川県内の大学では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。一方、甚大な被害をもたらした東日本大震災の被災地での活動環境は大変厳しく、とりわけボランティアリーダーには不眠不休と言っても過言ではない活動が求められ、石巻市では20～40代がボランティアリーダーの中心となっていました。

こうした現状の上で、地域防災力のさらなる向上を考えていくため、「若者」「顔の見える関係」をキーワードとし、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内各大学や企業、NPOと県民ボランティアセンター、県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるためのきっかけとなることを目指して本事業を実施しました。

平成27年2月

実施主体：石川県県民ボランティアセンター 石川県立看護大学  
問合せ先：石川県県民ボランティアセンター 金沢市香林坊2丁目4番30号香林坊ラモーダ7階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 E-mail e130500a@pref.ishikawa.lg.jp



## ① シティカレッジ講座「地域と災害」

災害ボランティア活動における若手のリーダー的存在となる人材を育成するため、大学コンソーシアム石川のシティカレッジ単位互換事業を活用して、講義や実践活動、グループディスカッション等の講座を実施しました。

### 【講座内容】

回数	授業テーマ	内容・講師
基礎第1回	これからの学生と地域との協働・ボランティア	これからの地域の課題、学生と地域との関係、学生としてのボランティアの在り方について学んだ。 [講師]池田幸應教授
基礎第2回	被災の実状を学ぶ	今後石川県で発生した場合に、ボランティアがどのように活動するか、地域防災計画に基づいて学んだ。 [講師]北村裕一防災ボランティアリーダー
基礎第3回	災害ボランティアの種類	災害ボランティアは、被災された方々・地域のお手伝いをする活動であり、いろいろな種類があることを学んだ。 [講師]茂尾亜紀専門員
基礎第4回	学生相互のネットワーク構築について	昨年度の受講生や実際に被災地で活動した学生たちとともに諸課題について学んだ。 [講師]武山雅志教授、学生
基礎第5回	地域住民の防災への取組と学生への期待	かほく市七窪区における防災への取組の紹介と防災における学生への期待を聞く。住民のニーズに学生がどのように応えることができるのかを考える機会とした。 [講師]武山雅志教授、英哲雄区長 綿木浩三専務理事
基礎第6回	災害復興過程と顕在化する課題：4年目の東北、8年目の能登から考える	4年目に入った東北、8年目の能登から見えてくる災害復興過程における課題について学んだ。 [講師]田中純一准教授
基礎第7回	災害と出会った私たちのその後ー災害からの心の回復についてー	対象喪失のプロセスや心の回復について事例を通して理解を深めた。 [講師]八重澤美知子教授
実践第1回	被災地での実践活動に向けて	実践活動を行う被災地の現状や被災地での活動における注意事項などの説明を行った。 [講師]全講師
実践第2回～第6回	「東日本大震災被災地における実践活動」	東日本大震災被災地において、被災者の方々との交流活動を通して学んだ。なお、現地においては、石巻専修大学山崎省一教授の協力を得て実施した。 [講師]全講師
実践第7回	きずなフォーラムの開催	被災地での実践活動で学んだことから、東日本大震災発生4年目の「きずな」の在り方について検討した。 [講師]全講師

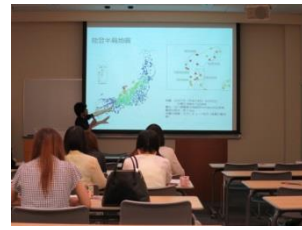
### 【概要】

開催方法：大学コンソーシアム石川のシティカレッジを活用（単位互換事業）  
提供大学：石川県立看護大学  
講師：研究会委員がそれぞれの専門分野で担当  
池田幸應教授（金沢星稜大学）  
八重澤美知子教授（金沢大学）  
武山雅志教授（石川県立看護大学）  
田中純一准教授（北陸学院大学）  
茂尾亜紀専門員（石川県社会福祉協議会）  
北村防災ボランティアリーダー（日本赤十字社石川支部）  
英哲雄区長（かほく市七窪区）  
綿木浩三（県民ボランティアセンター専務理事）  
学生協力団体：すとりば  
金沢星稜大学 学生赤十字奉仕団  
金沢大学 能登見守り寄り添い隊  
石川県立看護大学 ふたば  
北陸学院大学 よりそいの花  
受講生：金沢大学、金沢星稜大学、北陸学院大学から17名。

県内で活動する学生災害ボランティア団体がそれぞれ活動の紹介を行い、お互いの活動の現状や課題について学んだ



発災から8年目となった能登半島地震の被災者支援の課題や支援制度の変化、及び発災から4年目となった東日本大震災の復興の状況と課題について学んだ。



実践活動の参加者、及び県内の災害ボランティアサークルで活動している学生が、それぞれ、東日本大震災から4年目の「きずな」について発表を行った。



### 【受講生の声】

- ・日々の日常の行動が大切だということが分かった。いつ・どこで・何が起こるか分からないから、そのとき、冷静に行動できるように日々の行動を心掛けることが大切だと分かった。
- ・ボランティアは人と人が対等であることであって、ボランティアをしてあげるといふ気持ちで行ってはいけないということが分かった。
- ・防災についてもっと知るべきだと感じた。まず防災に関する知識について知らない人は多いと思う。
- ・災害のとき命が助かって、その後自ら命を絶つ人や孤独死の問題も重要だと感じた。
- ・3年半たった今も復旧が目に見えるものでないために実感がわかないこと、ボランティアに頼りっぱなしのままではいけないということなど今までにない意見が聴けて良かった。

## ② 東日本大震災被災地における実践活動

実際に被災地を訪れ、被災地の状況を直接見聞したり、現地の方と交流したりすることで、災害ボランティアに対する意識を高め、理解を深めてもらうため、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市を中心に活動を行いました。

### 【概要】

日程：平成26年9月9日（火）～11日（木）[2泊3日]  
行先：宮城県石巻市  
移動：中型バス1台（現地での移動時にも使用）  
参加者：15人  
活動内容：大学、NPO法人、民宿など多岐にわたる立場からの話のほか、中学生との交流を実施、参加者は一日ごとに活動の共有を行い、意見交換を行った。  
宿泊：民宿 めぐる  
連携協力：石巻専修大学山崎省一教授の協力を得て実施  
その他：参加者本人及び未成年者の保護者より同意書を提出  
国内旅行傷害保険に加入

### 【スケジュール】

日時	活動内容
9月9日(火) 3:00～3:35	若松→金沢星稜大学
4:00	県庁出発
12:00	石巻市到着(市内散策)
14:00	石巻専修大学 講義「震災から現在までの復興の時間経過」 地域復興支援ワンストップサービス石巻センターコーディネーター 伊東孝浩氏
15:30	石巻専修大学 講義「神戸震災から学ぶ石巻での町づくり」 NPO 法人 まち・コミュニケーション代表理事 宮定 章氏
18:30	一日目活動の共有・意見交換 (宿泊:民宿 めぐる)
9月10日(水) 7:00	起床
10:00	金華山黄金山神社 講義「被災時の話、ボランティア活動について」 権禰宜 小松匡志氏 ボランティア活動
16:00	民宿めぐる 講義「被災時の話、ボランティア活動について」 民宿めぐる 目黒政明氏
16:30	二日目活動の共有・意見交換
19:00	大原生活センター 中学生との交流、勉強サポート (宿泊:民宿 めぐる)
9月11日(木) 6:00	起床
10:00	石巻専修大学 講義「東日本大震災、その時学校は」 石巻専修大学非常勤講師(門脇小学校前校長) 鈴木洋子氏
13:00	石巻市出発
13:30	三日目活動の共有・意見交換
22:00	県庁到着
22:30	金沢星稜大学→若松→北陸学院大学 解散
22:00～23:00	



地域復興支援ワンストップサービスの伊東コーディネーターから震災直後から今までのそれぞれの状況を学んだ。



NPO法人まち・コミュニケーション宮定代表理事から、阪神・淡路大震災と東日本大震災の復興の様子を学んだ。



民宿めぐる目黒氏から、被災時にどのように対応したか、助け合いの様子について学んだ。



門脇小学校の鈴木前校長から日頃の訓練の大切さやリーダーの判断方法を学んだ。



金華山黄金山神社の権禰宜 小松氏から被災時の状況、全国からのボランティアの状況について学んだ。



大原生活センターで中学生とお互いのことを話し合いながら、勉強サポートを行った。



石巻市での記録的な大雨に遭遇し、予測ができない災害の恐ろしさについて学んだ。

### 【受講生の相互ネットワーク】

シティカレッジ講座や被災地での実践活動をきっかけに、受講生同士が災害又は防災に関するボランティア活動を行うため、平成25年12月4日に大学の枠を超えたネットワーク「石川県学生災害ボランティアネットワーク(通称「すとりばネット」)を立ち上げました。

学生が中心となり、学生ならではの視点で災害ボランティア活動の連絡調整や普及・啓発などの取り組みを行い、本事業の研究会委員や県民ボランティアセンターがサポートしていきます。